

顧客の声から生まれた地下水飲料化システム

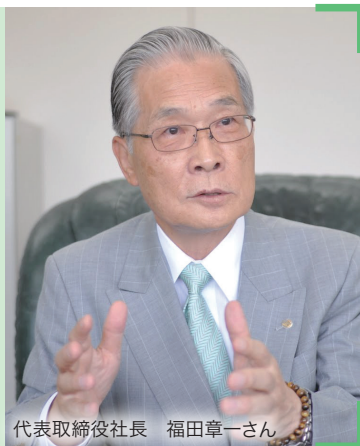
事業内容

自家用専用水道（地下水膜ろ過システム）、工業用水飲料化システム（SADW システム）、災害時非常用浄水装置（セオエール）、地中熱・排熱利用ヒートポンプ冷暖房システム等の製造・販売・メンテナンス、水質分析、地下水調査等

特許登録番号と内容

商標登録 4849414	イーキューブ/e-Cube
商標登録 4877436	みずごころ/水心
商標登録 4950376	革命水
商標登録 5298562	タンクール/ TANCOOL
商標登録 5312711	セオエール

他、特許登録および申請中全 39 件、商標登録全 32 件（2010 年 7 月 31 日現在）



代表取締役社長 福田章一さん

全国800か所で導入されている地下水飲料化システム

地下水飲料化システムのパイオニアとして、全国的に事業を展開する株式会社ウェルシィ。「地球環境向上」を社是に掲げる同社は、膜応用技術を駆使し、顧

客に対して安全・安心・おいしい「水」とともに、水道料金の削減、水源の多元化による防災対策、地域貢献、環境負荷軽減といったメリットも提供している。

主な製品は、地下水を飲料水として提供する「地下水膜ろ過システム」で、全国の病院や介護施設。スーパー・百貨店、駅関連施設、工場など、800 件を超える納入実績がある。

顧客のニーズを敏感にキャッチ
地下水ビジネスのきっかけに

ビジネスの経緯は、同社が節電機器販売事業を手掛けていた頃に遡る。顧客から「電気代は安くなったが、水道代は何かならないものか」と相談を受けることが多々あった。福田さんがすぐに調べてみると、日本の上水道は「官のビジネス」であり、電気分野と比べると技術革新が遅れている。電気の世界は日進月歩にもかかわらず、地下水はビジネスとして考えられていなかったのだ。

COMPANY DATA

所在地：東京都千代田区麹町 4-8-1 麹町クリスタルシティ東館 11 F

電話番号：03-3262-2431 URL：http://www.wellthy.co.jp

設立：1985 年 11 月 資本金：3 億 7,350 万円

売上高：約 57 億円（2009 年 5 月期）従業員数：131 人（2010 年 5 月現在）

これに刺激を受けた福田さんは、思い切って業界に参入。以来、独自の技術で地下水ビジネスを牽引し続けている。

特許取得は難しい
しかし、大企業と戦う武器になる

一時期、国内に 30 社～ 40 社ほどもあった競合企業だが、現在残っているのは 10 社ほど。その中で、他社との差別化のポイントとなるのが、知的財産の活用だ。特に、特許申請には特殊な技術が必要であることを、福田さんは過去の経験から痛感している。

かつて同社が取得した特許が、異議申し立てにより無効になったことがある。一度特許を取得してしまえばそれで安心だと思っていた同社は、防衛の対策が遅れ、取得した特許を無効とされてしまったのだ。福田さんはそのとき、とても悔しい思いをしたと同時に、特許ビジネスの可能性に目覚めたという。

これをきっかけに、特許専門の部署を社内を設置。従業員の特許に対する意識を向上させた。また、多くの特許申請を行うことが、技術を持つ会社として同社の評価を高め、実績に結び付いているという。

「知的財産を持っていることで、大企業とも五分に渡り合える。中小企業にとっては大切な武器」だと、福田さんは力説する。

知的財産権の社内管理体制を強化
社内への浸透を図る

同社における知的財産にかかわる案件は、多い年で 5 件、平均すると年に 2～3 件。この管理を、水処理

中央研究所 副所長
澤田繁樹さん専務取締役 管理本部長
渡辺愛彦さん

の研究開発のベテランで、300 件余りの特許を出願した経験を持つ、中央研究所副所長の澤田繁樹さんが 1 人で担っている。「出願や取得特許にかかわる対応は、専門家の力を借りています。今、私が特に力を入れているのは社内の管理体制整備です」と澤田さん。

その言葉通り、同社では「情報管理規程及び関連マニュアル」に加え、2010 年 2 月には「知的財産権管理規程」を整備。開発者と会社との特許に関する権利関係なども規定した。専務取締役管理本部長の渡辺愛彦さんは「社内規程が整っているのが、当社の強みです。社内には浸透させ、新たな発想の特許がどんどん出てくることに期待しています」と語る。同社は今後、社内研修に力を入れていくという。

海外進出に向けて
この2～3年が勝負に

2009 年には韓国でも特許を取得。さらに「この 2～3 年を、海外進出における勝負の時だと考えています」と福田さん。

台頭する中国企業への対応、また、北アフリカでも大規模プロジェクトが進行している同社にとって、今後は国際特許への対応も不可欠だ。

知的財産活用のポイント

施。同社では、その資金を開発費に積極投資し、地下水飲料化システムの小型化・性能アップなどに結び付けた。

2005 年には東京商工会議所の「勇気ある経営大賞」優秀賞を、翌年の 2006 年には「ニュービジネス大賞」の最優秀賞と経済産業大臣賞をダブル受賞した同社。さらに 2008 年には、福田さんが「Entrepreneur Of The Japan」のファイナリストに選出されている。今後の活躍も見逃せない。

事業の信頼性、将来性が
新たなビジネスチャンスを生む

特許ビジネスを積極的に展開してきた同社にとってビジネスをさらに加速させる転機となったのが、金融機関が同社の地下水膜ろ過技術の新規性と優位性に着目し、融資を行ったことだった。

2004 年、日本政策投資銀行が、同社が出願中の特許を担保に「知的財産権担保融資」として 6,000 万円の融資を実

図1 事業内容

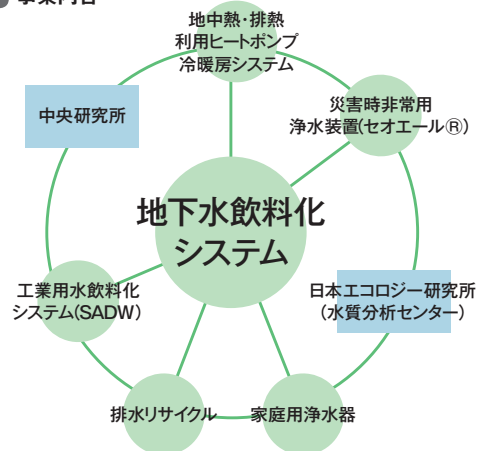
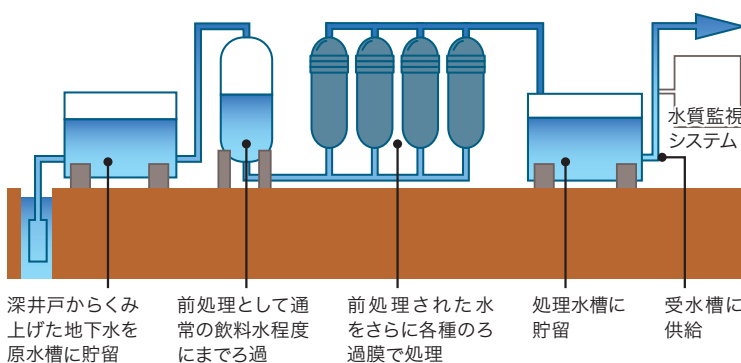


図2 地下水飲料化システムの流れ

現在特許出願中の
災害時非常用
浄水装置
「セオエール®」